

すみよし



聖 句

愛は忍耐強い

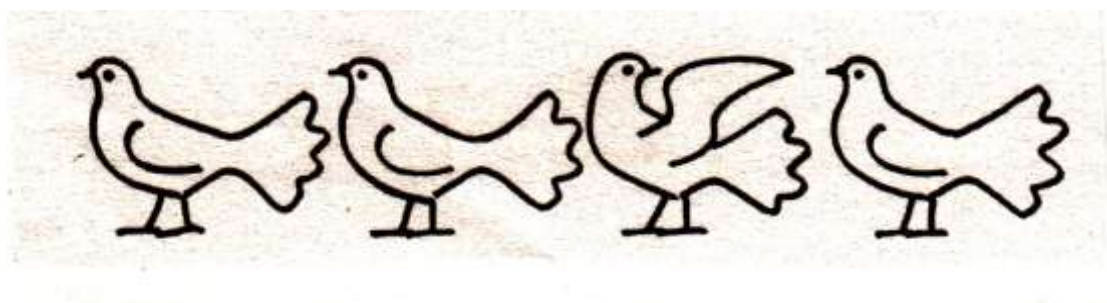
愛は情け深い ねたまない

愛は自慢せず 高ぶらない

礼を失せず 自分の利益を求めず

いらだたず 恨みを抱かない

コリントの信徒への手紙一 1 3 章 4 ～ 5 節



ルルドの奇跡

赤波江 豊 神父

教会でよく知られた巡礼地にフランスのルルドがあります。毎日世界中から無数の人が巡礼してそこで祈りをささげています。また世界中の多くの教会で庭に小さなルルドを作って、実際フランスまで行けなくてもルルドの聖母と心をひとつにして祈ってきました。

ところで、ある男性がルルドに巡礼に行きました。でも彼はそれほど信仰深い人ではなかったし、それにもともと彼はルルドに関心があったわけでもなかったのです。ではなぜわざわざルルドまで行ったのでしょうか。たぶん他の人に勧められて仕方なしに連れられて行ったのかも知れません。彼はもともと重い病気を背負っており、医者からは治らないと宣告されていました。そのため彼は毎日つぶやきながら暗い日々を送っていました。

ある日彼がルルドの洞窟の前に立っていると、ある男の子が祈っている姿が目に入りました。その子は生まれながらにして重い病気であることもすぐ分かりました。その子は何をお祈りしていたのでしょうか。「神様ぼくの病気を治してください」とお祈りしていたのでしょうか。あるいは「神様悪い人たちが心を入れかえますように」とお祈りしていたのでしょうか。とにかくその子は不自由な体で一生懸命祈っているのです。その男性はしばらく男の子の様子をみていましたが、何ともその子が可哀そうに思えて仕方がないのです。

「この子は何の罪もないのになぜこんな重い病気を抱えているのだろう」「この子は一生こんな重い十字架を背負って生きていかなければならないのだろうか」彼はこう思ったことでしょうか。そして、人のためにはあまり祈ったことのなかった彼が、その子を見てあまりの辛さに思わずこう祈りました。「神様何とかしてこの可哀そうな子を救ってあげてください」と。その時不思議なことが起こりました。彼は自分の病気が癒されたことを感じました。でも自分が祈ったはずの男の子は相変わらずそのまま祈り続けているのです。その子には何の変化もありませんでした。神様は意地悪なののでしょうか。なぜ神様は一生懸命祈った子どもの祈りは聞き入れず、あまり信仰のない人に奇跡を与えたのでしょうか。実は神様は知っていたのです。この子に奇跡を与えなくてもこの子が信仰を失うことはない。むしろこの子は重い病気を通してますます信仰が深まっていくということを。奇跡を通して信仰に目覚める必要があったのはその男性の方だったのです。もしかしたらその男の子は彼のためにも祈っていたのかも知れません。実際彼は奇跡の恵みを受けた後、信仰に目覚め、その後の人生を多くの人々の救いのためにささげました。

ルルドでは毎日無数の人が祈りをささげています。どこの教会でも祈っている人の姿を見かけます。祈っている人の姿をしっかりと見つめましょう。その後ろ姿から何か感じるものがあったら、その人と心をひとつにして祈ってあげてください。

[目次](#)

《目 次》

☆ 聖句	．．．．．	2
☆ 巻頭言 「ルルドの奇跡」	赤波江 豊 神父	．．．．． 3
☆ 目次	．．．．．	4
☆ 諏訪司教叙階式	写真	．．．．． 5
☆ 諏訪司教叙階式に参列して	RK	．．．．． 6
☆ 2011 年神戸地区大会に参加して	NS	．．．．． 7
☆ 洗礼式・初聖体・堅信式	．．．．．	9
☆ 自己紹介 ・トゥアンさん	．．．．．	14
☆ 教会学校 （遠足・サマーキャンプ）	．．．．．	17
☆ 納涼バーベキュー大会	．．．．．	20
☆ 図書コーナーから	．．．．．	22
☆ 信徒動静	．．．．．	22
☆ 教会日誌・ミサ・信仰講座案内	．．．．．	23
☆ 後記	．．．．．	23

題 字：山 際 純 子

表 紙 絵：教 会 学 校

諏訪司教様 おめでとうございます

6 月 19 日 高松司教座聖堂 桜町教会



叙階式を終えて



新司教と信徒達



住吉在任中に (1995・4～1997・4) 教会学校の
子供達が描いた神父様のプロフィール

《諏訪司教叙階式に参列して》

RK

思い返せば 16 年前、阪神淡路大震災でかろうじて聖堂は残ったものの、全壊した司祭館跡に建てたプレハブ小屋の一隅に寝泊りしながら、諏訪神父様はほこりだらけで毎日働かれました。一見神父様には見えない普通の格好、プレスリーが好きなリーゼント頭の「すわッチ」！「すわチャン」！私たち信徒も自分の家のかたづけの一方、教会近くの公園で“ふれあい広場”をしたり、中山手救援基地（現カトリック社会活動神戸センター）へ炊き出しのお手伝いに行ったり、復興住宅を訪問したり、また聖堂の修理・清掃を総出でしたり、と今思えばよく働きましたが、そのどれも神父様は率先して動かれました。そして「新生」「開かれた」「谷間に置かれた人々」などの言葉がよく聞かれ、また評議会やチーム制の導入も神父様が指導されたと記憶しています。信徒の中に戸惑いや反発があったことも事実でしょう。

さてそんな諏訪神父様が高松教区司教におなりになるというので、私は遠足がてら見に行こうかと（ごめんなさい）、中央教会主催のバスに乗り込みました。中央教会の方のたくみな進行で、車内は諏訪神父様の様々なエピソードで盛り上がり、また、赤波江神父様のお話―“司教”というのには十二使徒に選ばれるという大変な重責である―を伺い、これからの諏訪司教様のために皆でロザリオを唱えたりしながら四国をめざしました。

高松に着き、名物の讃岐うどんをいただいてから、司教座聖堂（桜町教会）へ。そこは、日本全国の司教様方、四国や関西からの司祭方（もちろんパウロ神父様も）、大勢の信徒であふれていました。私たちは信徒会館の大型スクリーンでミサにあずかりました。ミサは池長潤大司教様の司式で、荘厳な叙階の儀をはさんで新司教に引き継がれ、感動のうちに滞りなく終わりました。各方面からたくさんのお祈りと激励のご挨拶がありましたが、新司教様のご挨拶の中で印象に残ったのは「自分はほんとうはふさわしくない、でも…」というお言葉。それから「高校生の時自分は母親を聖人だと思っていた。」（それが今日の原点である…）。六甲教会の 90 歳代のお母様は車椅子で参列されていたそうです。

四国はこちらの震災の時とはまた違う困難な問題もあるようです。神様が選ばれた諏訪新司教様の上に、豊かな聖霊のお働きがありますように！と皆で祈りながら、バスも無事夜更けの三ノ宮へ帰ってきました。

《2011 年神戸地区大会に参加して》

NS

去る 6 月 5 日（日）「カトリック神戸地区大会」が、神戸海星女子学院講堂で開催され、「共同体を育て、耕そう」というテーマのもと、神戸 11 小教区が集まりました。

今にも降りそうな空模様にも拘わらず 700 名の参加者があり、会場を埋め尽くすブルーの集団は圧巻でした。（※ 11 小教区をデザインしたコバルトブルーの T シャツが今大会のために作られ、司式を終えられた神父様方もお着用でした）



まず池長大司教様を中心に各教区の神父様方による共同司式での御ミサが行われ、大司教様は「キリストに倣って生きる大切さ」を説かれました。また各国語での共同祈願は、「つながり」「共同体作り」を願い、言語は違っても皆の思いがひとつであることを印象づけました。



さて今回大会のイベントは「映像による各小教区紹介」でした。11 小教区が様々な工夫をこらして、各 8 分の制限時間内に納めたストーリーが、会場スクリーンいっぱいに映し出されました。教会の生い立ち、ロケーション、日々の活動、抱える問題点、新しい試み等など、焦点の絞り方には各教会の個性が溢れ、その小教区が何を大切にしているかを知ることができました。教会によってはステージ上で民族衣装をまとい、歌や演奏を披露して下さるところもあり、和やかなムードが会場全体に漂いました。これまで他教会への知識が乏しかった私にとり「眼と耳からのインパクト」は各教会を理解する大きな助けになりました。

私たち住吉教会は、聖堂の変遷→小教区活動→国際交流の順で紹介を行いました。当日は、教会学校のシーンで中高生諸君、セニョール・デ・ロス・ミラグロスでカスティーヨ夫妻がステージに上がり、会場から大きな喝采を浴びました。そして映像で語りかけるトゥアンさんスティーブさんの笑顔にも会場から大きな拍手が沸き仄々とした雰囲気のままラストシーン「住吉教会の目指すもの」に繋がりました。(※この映像は住吉教会 HP 左下「ビデオ」からご覧になれます)

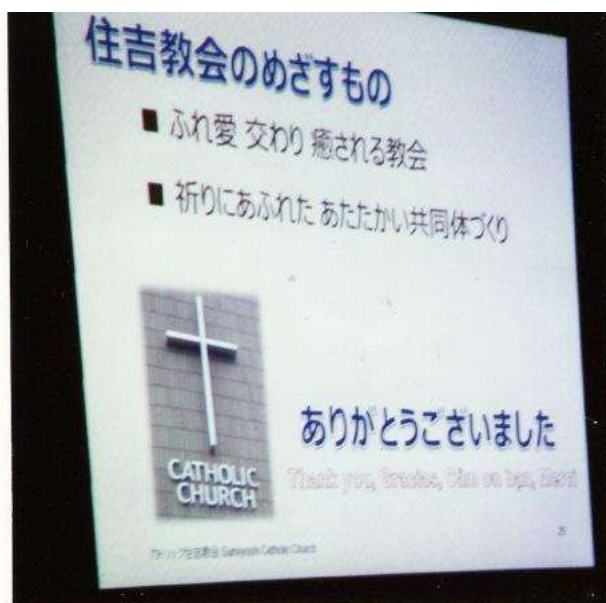
今回私はナレーションのお役を頂いたのでビデオ準備段階から様子を拝見しましたが、Kr 様、Kw 様を中心に自由に意見が交わされ、構成は終始スムーズに進みました。また今回大会は東ブロックが担当でしたので、運営に数多くの住吉の皆様が関わって下さいました。

「大勢のわたしたちも、キリストにおいて一つの体であり、一人ひとり互いに部分なのです」 すべてを通じ、この言葉のとおりでした。

† ☆ † ☆ † ☆ † ☆ † ☆ † ☆ † ☆ † ☆ † ☆ † ☆ † ☆ † ☆ † ☆ † ☆ † ☆ †



セニョール・デ・ロス・ミラグロスの紹介



会場スクリーンに映し出された住吉教会の紹介

《洗礼式・初聖体》



洗礼おめでとうございます



家族で祝福 ♪ ♪

初聖体おめでとうございます





4 月 24 日の復活祭にかわいい 4 人の子供たちが初聖体をうけました。夏の暑い日からお勉強を始め、神父様や先生方に神様のこといっぱい教えていただきましたね。これからも 4 人仲良く神様に愛される住吉教会の宝でいてください。

みんなに神様の豊かなお恵みがありますように。

RK



洗礼おめでとうございます

2011 年 8 月 7 日



8 月 7 日 3 人の孫達が洗礼の秘跡を受けることができました。大変嬉しく神様に感謝の思いでいっぱいです。

私のルーツをたどると 6 世代目になりますので長いつながりは神様のお導きがあつての事だと思っています。これからも次の世代へと受け継がれますように彼らの上に神様のお恵みとお導きが豊かにありますように願っています。

KK



「キリストの洗礼を受けよう」僕がそのように決めたのは、昨年八月に行かせていただいた長崎巡礼がきっかけでした。教会を巡っていく内に、心を動かされていきました。

洗礼を受けてから、洗礼を受ける前の自分とは何かが変わったような気がしています。しかし、何かが変わった自分に気付いた時純粋に「洗礼を受けて良かった」と思うことができました。

洗礼や堅信を受けることができるのは、神様のお恵みだと思います。このお恵みをいただいたことを、本当に嬉しく思います。このお恵みをいただくにあたって、赤波江神父様や代父の SK 君をはじめとする様々な方が僕のことを支えて下さいました。

これから、教会の一員として教会のために出来ることが少しでもあれば、やっていきたいと思っています。

どうぞよろしくお願いいたします。

ペトロ・バプチスタ HT



代父は親友です



友人たちも祝福

晴哉君が洗礼を受けるという話を聞いたのは、昨年の夏の終わりでした。晴哉君とは、星の園幼稚園のときから一緒に、教会学校にも行っていたし、教会にも時に行っていたので、ずっと神様とご縁があったのですが、洗礼を受けると聞いた時にはとても驚きました。しかし、驚いた反面とても嬉しかったです。また、みんなで喜びを分かち合うことで、もっと大きな喜びにつながりました。

半年間の勉強期間を経て復活徹夜祭の日、ついに彼は洗礼の秘跡、そして初めての聖体の秘跡を受けました。本当に洗礼を受けた時は、昨夏よりもはるかに嬉しかったです。また、この1ヶ月後には堅信の秘跡も授けられました。

これからも、今回洗礼を授かった晴哉君や、他の友達と共に歩んでいきたいです。

ペトロ・山部カズ SK

《東ブロック合同堅信式》

5 月 29 日（日）

5 月 29 日（日）11 時 15 分より神戸中央教会に於いて、東ブロック（住吉・六甲・神戸中央）合同堅信式が行われました。

池長大司教様司式ミサの中で、住吉からは 7 人の方々が堅信の秘跡を受けられました。





堅信おめでとうございます

ホッとしてニコニコ。
パーティのお料理が
おいしい!!



《 自 己 紹 介 》

神学生 トゥアン

私は、ドミニコ グエン クオク トゥアンと申します。1974年1月4日にベトナム南部のサイゴンで生まれました。両親と姉2人兄3人の8人家族、私は末っ子です。

大学卒業後8年間、高校で数学を教えていました。その後 神学校に入り6年間神学と哲学を学び卒業しました。卒業を機に私はフランシスコザビエルの様にアジアで宣教したいと希望し日本に派遣されました。日本に向かうにあたって、それまで全くこの国についての言葉、生活、文化を知らなかったのでゼロからの出発となりました。



日本には、2009年9月に参りました。最初は八尾教会の高橋神父様にお世話になり、次いで玉造教会、布施教会と巡り、当住吉教会へは2011年4月から1年間の予定で参りました。現在、日本語学校に通いながら日本語の習得に励んでいます。

釜崎の子供の里へ木曜日と土曜日に午後3時から8時まで行きます。そこで子供達に算数を教え、私は子供達から国語を教えてもらっているのです。

初めて来日した時は全く何も分からなかったのですが、ようやく慣れて来て、日本の食べ物などはお刺身でも納豆でも何でも食べられます。特にベトナムにはないメロンはとてもおいしくて好きですね。

私は高校時代サッカーやピンポンをしていました。先日のなでしこジャパンの活躍はすばらしかったですね。テレビで観戦しました。

今、日本語の本を読んでいます。「5つのパンと2ひきの魚」と「カトリック教会のカテキズム・要約・598 Q&A」です。

「5つのパンと2ひきの魚」は、ベトナムの フランシスコ グエン ヴァン トゥアン 大司教様が書かれ、日本語に翻訳されたものです。

赤波江神父様はお料理がお上手でとてもおいしいです。時々私も手伝います。そして日本の方々は皆親切です。

来年4月まで住吉教会でお世話になりますが、どうぞよろしくお願い致します。

(聞き書き：広報部)

[目次](#)

び私らせで時を 家83兄私ま来す。ENン
 まは召ん召に教 族弟のうま ・と
 し一命で命孤え19はでの家 し1QU申私 私
 た。過をしの児ま96今す。中族19た。年66しは の
 間考た。このし年ベ では74 10・まド 召
 そ黙え と勉たにト私一兩年今かTHす。三 命
 れ想るでを強 私ナの番親に 月UÅ ニ ど
 かをよもまももはム姉下と私住前Nロコ う
 らしう じ手の大にとで6は吉に .1・
 神たに孤ぬ伝時学住兄う人サ教私漢マダ
 学後な児にい せんは 兄イ会は字字エ
 校でりの考ま教卒で結父弟ゴでんでン
 で司ま勉えし学業V始はのンおトはは・
 私祭し強たたをしまし今召に世ナ阮DOク
 は召た。をこ 教たす。ま年人生話ム国Hiオ
 哲命 手と私え後 し84でまにか純Niク
 学のそ伝ははな高 た。歳すれな5とC・
 と道れいおそが校 まっ日書・ト
 神をでなりれうで 私母私して本さNGッ
 学選 がまま同数学 のははたいへまUYア



私の いじはのが私近、辛り後、11 望た を
 のた まき、タ名いは、せ今大日がいシ勉
 たぬ私ち。イ前ス阪私私で 阪か段とス強
 め日は 私がのの神ははす。住大う、々思コし
 に本早 は、イ帽子タ野サ 吉司 実い、ま
 祈語く 本スニにイ球ッ 教教ハ現まザし
 っを司 をがシはがを力 会館、尾にしビた。
 て毎祭 読好ヤ「ー見ー お世話 教向たエ
 く日に んきルTHスると そ会か ル神
 だ勉な だだは「をこビ になか住て 今、の学
 さ強るの を 音るTH書援がボ っら、4 い日女の
 い。しを て望 楽で「かし好ン て 始ま本読時、
 いん をす。でれてきが いビめち。に4
 まで 聞 す。ていに好 まアま 来宣私
 す。い い時 いまなさ す。ンし 20 て、教は
 ま た間 そまち。りで ねた。09 師聖
 皆ち。 りがれち。ます。 私館 年私にフ
 さ しあは タし はにそ9のなう
 えそ てる私私いた。最 今移の月希リン

教会学校

遠足 7月2日 住吉川



子供たちもリーダーも

みんな たのしそう！！



教会学校サマーキャンプ

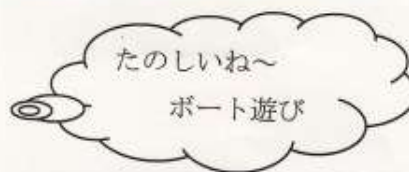
7 月 25 日～26 日 明石市立少年自然の家

7 月 25 日(月)～26 日(火)一泊二日で明石自然の家で子供達 41 名が江井ヶ島の海を楽しみました。夜はキャンプファイヤーで皆が一つになって楽しい時間を過ごしました。

次の日の朝早く海でミサにあずかりました。

お昼はうどん作り:みんな真剣にこねて美味しいうどんが出来ました。

最後に記念撮影をして宿舎を後に帰りました



おいしいね♪



海岸で御ミサ



うどん作りも
体験しました♪



納涼バーベキュー大会

2011. 7. 31 pm5:00～

「みんなで準備してみんなでかたづけろ」がモットーの住吉名物バーベキュー大会が今年も盛大に行われました。中央、六甲教会からのお客様を含め総勢 90 名余いの参加者。中高生や若者が汗だく大活躍して次々焼いて下さるおいしい食べ物をいただきながら和やかに楽しく夏の夕べを過ごしました。



カンパ～イ



インターナショナル
会話は日本語？！





《 神様のお恵みが豊かにありますように 》

KH さんは明石カトリック教会の信者さんで、当院では平成21年2月より医療事務をお願いしておりました。9月にSr.ヨハンナ、Sr.スザンナ、Sr.アンヘレス方が所属されている「聖マリアの無原罪教育宣教修道会」に入会されます。彼女は子供の頃お母さんと共に、北須磨カトリック教会でペンケレシ神父様に大変お世話になったそうです。バーベキュー大会に神父様も来られるからと誘ったら、喜んで参加してくれました。

皆さんと一緒にこの喜びを分かち合えれば幸いです。

HT

[目次](#)

《 図書コーナーから 》

新刊書

☆『マザーテレサの秘められた炎』 女子パウロ会
ジョゼフ・ラングフォード 著 里見貞代 訳

ラングフォード神父が若い神学生の頃、ローマのとある書店でマザーテレサがまったく誰であるか知らずに、ただただ表紙の写真に引きつけられて初めてマザーと出会い、後に「神の愛の宣教者会」司祭の会を創立し、マザーと共に行動した中で書かれたこの書をとおして「マザーの全ての言葉や活動のうちなる泉をたずねたい」「マザーの本当のお姿を読者に伝えたい」という出版社の意図を十二分に満たす深い内容です。

(訳者の後書きより)

ご寄贈図書より

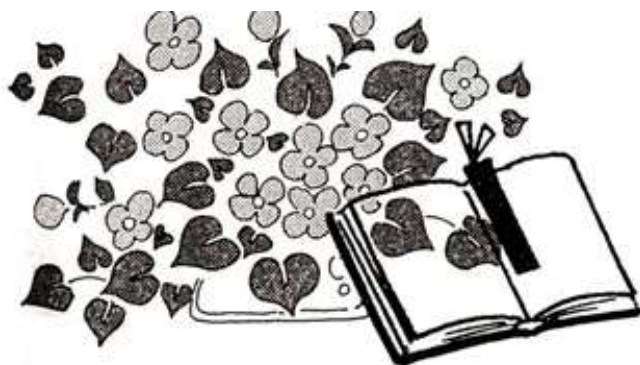
☆『ヨハネ・パウロ二世日本の四日間』 山内継祐 著

1981 年 2 月 23 日～2 月 26 日の教皇訪日時に際して、「公式記録」の取材・編集・製作にあたった著者の書である。

☆『神父燦燦』 カトリック司祭 58 人に聞く カトリック新聞社

2009 年 6 月 19 日～2010 年 6 月 19 日までの「司祭年」にあわせ、「カトリック新聞」(週刊)が全国各地の司祭達に神父になったきっかけ、学生時代の思い出、司祭生活における転換点等をインタビューして掲載したコラム「神父燦燦」をまとめた書です。

2 階図書コーナーでは新刊、ご寄贈等新しい書籍が増えてきました。又 OA 室には各催しの時の DVD, CD 編集版があります。ご利用下さい。



《後 記》

賑やかな蝉しぐれの猛暑になりました。昨年までエアコンに頼らない夏はほとんど考えられなかったのですが、電力不足の今年は節電して過ごしています。

でも我慢も限界になってつけた時の冷房の涼しさにしみじみと有難みを感じます。日頃の恵まれている生活に気付かず感謝を忘れがちな私には良い教訓の夏になりそうです。何ごとにも感謝！

AM

次男が通っていた学校の始業・終業のチャイムは「あめのきさき」でした。卒業式の時には、「蛍の光」よりも「仰げば尊し」よりも大きな声で、400人の男子が「あめのきさき」を歌ったのは感動的でした。ほとんどの生徒は信者ではありませんでした。彼らがこれから先、喜びの時・困難にあった時、世界のどこかで「あめのきさき」を聞き、神様に出会えることを祈りました。

そして、私は「あめのきさき」を聞くと若い人のこれからを思うようになりました。特に東日本大震災で親御さんを亡くされた子供達、困難な中にある若い方達のために、マリア様に取り次ぎを願う祈りをしたいと思います。

HH

「すみよし」第 184 号

発 行 日： 2011. 8.15

編集責任者： 赤波江 豊神父

編集・発行： 広 報 チ ー ム

発 行 所： 神戸市東灘区住吉宮町 2—18—23

カトリック住吉教会

TEL： 078-851-2756

FAX： 078-842-3380

<http://www.sumiyoshi.catholic.ne.jp>

製版・印刷： 信 徒 有 志



[目次](#)